ふるさと資料紹介

＝51＝

史料と地名からみた地区の歴史⑥

古井（二）

江戸時代、上古井村の枝郷であった川合村は水田が少なく、多くの人が船稼ぎをしていました。

濃州徇行記という江戸時代の記録には、家数五〇軒、船頭六十六人と書かれています。寛保元年（一七四一年）川合村の川船は十五隻でしたが、明治末には一二〇隻をもつまでになり、木曽川上川筋で最も多くの船を持つほどに栄えました。船には年貢米や日用雑貨品などが積まれ、主に名古屋へ運搬されました。

一方、当時木曽と飛騨の山々から伐り出された材木は木曽川上流の錦織（八百津町）、飛騨川上流の下麻生（川辺町）で筏に組まれ、川合で中継され、多くの人が筏乗りとして活躍しました。

昭和十四年、関西電力今渡発電所が完成し、筏流しや船運は姿を消しました。

▲かつての筏乗りの人たち〈1991年撮影〉

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

（平成七年八月分）

○炭俵作り機など　十点
（藤掛充郎さん／三和町）

○養蚕用火鉢など　二点
（渡辺貞夫さん／太田町）

○振りマンガなど　六点
（板津金次さん／本郷町）

文化課（☎内四〇八）まで情報をお寄せください。